

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																							
河原デザイン・アート専門学校		平成13年4月3日		白石隆保		〒790-0002 愛媛県松山市二番町1丁目12-2 (電話) 089-931-9111																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																							
学校法人河原学園		昭和60年10月21日		理事長 河原成紀		〒790-0001 愛媛県松山市一番町1丁目1-1 (電話) 089-943-5333																							
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化・教養関係専門課程	漫画クリエイター科				平成22年文部科学大臣告示第30号	—																						
学科の目的	職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものとする																												
認定年月日	平成26年3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																						
2		1710時間	795時間	915時間	0時間	0時間	0時間																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																								
60人	49人	0人	2人	7人	9人																								
学期制度	■前期:4月8日～9月30日 ■後期:10月1日～2月21日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末試験の結果によって評価																								
長期休み	■学年始:4月8日 ■夏季:7月22日～8月23日 ■冬季:12月20日～1月13日 ■学年末:2月24日～4月7日			卒業・進級条件	出席率90%以上 卒業基準検定の取得 期末試験合格																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 本人及び保護者との面談			課外活動	■課外活動の種類 NPOまんがで繋がる愛媛～ひめコミ～ ■サークル活動: 無																								
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 印刷業、サービス業、製造業			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)																								
	■就職指導内容 就職三者相談会、履歴書の添削指導、面接指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文章読解・作成能力検定3級</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>漫画キャラクター検定準2級</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス著作権検定初級</td> <td>③</td> <td>28人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	文章読解・作成能力検定3級	③	16人	9人	漫画キャラクター検定準2級	③	16人	10人	ビジネス著作権検定初級	③	28人	5人				
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																								
	文章読解・作成能力検定3級	③	16人		9人																								
	漫画キャラクター検定準2級	③	16人		10人																								
	ビジネス著作権検定初級	③	28人		5人																								
■卒業生数: 29 人			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。																										
■就職希望者数: 29 人			①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの																										
■就職者数: 29 人			②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの																										
■就職率: 100 %			③その他(民間検定等)																										
■卒業者に占める就職者の割合: 100 %			■自由記述欄 「kawaii」選手権大会入賞 八反地沙那 「別冊フレンド」10月号 ジュニアスター賞 畔地由佳奈 「月刊少年チャンピオン」10月号 第4回月チャンまんがGP 期待賞 大西星良 高知新聞社「黒潮マンガ大賞」もう一步賞 沖野拓海																										
■その他 ・進学者数: 0人																													
(令和 元 年度卒業者に関する 令和2年5月1日 時点の情報)																													
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成31年4月1日時点において、在学者49名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者47名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合による進路変更および心神喪失			■中退率 4 %																									
■中退防止・中退者支援のための取組 学業不振を防ぐために小テストの実施と補習を行う。変化に気づくための個別面談。 不登校の学生に対しての専門家によるカウンセリングの実施など。																													

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: <input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無 ■河原学園奨学生制度 種類:給付型(返還義務なし)</p> <p>■授業料等減免制度 ★入試特典:AO入試(初年度授業料10万円減免)、指定校推薦入試(初年度授業料15万円減免)、推薦入試(初年度授業5万円減免)、一般入試・自己推薦特典(初年度授業料3万円減免)、一般入試・大学短大社会人特典(入学金半額減免)</p> <p>★高校生向けの支援制度 ■河原学園特待生制度 SSS級:学費100万円減免、SS級:学費50万円減免、S級:学費25万円減免、A級:学費15万円減免 ■河原学園特別学生寮制度 第一種/寮費:無料 第二種/寮費:月額1万円 ■一人暮らし支援制度/支援額:月額5千円支給 ■通学定期代支援制度/支援額:月額5千円を上限として通学定期代の一部を支給</p> <p>★大学・短大・社会人向けの支援制度 ■再入学制度/入学金全額免除 ★全対象の支援制度 ■家族制度/減免額:授業料5万円減免 ★入学後に利用できる制度 ■進級時特待生制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: <input checked="" type="checkbox"/>給付対象 <input type="checkbox"/>非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: <input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>URL:https://idea.kawahara.ac.jp/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門学校の職業教育のモデルは、業界の実務動向、社会の変化がその基盤になければならない。したがって教育課程の編成においては、業界及び社会の変化やニーズ、在校生及び卒業生の仕上がり状況等の不断の組織的、継続的検証を行う必要がある。企業等から広く、具体的に意見を求め、高度で実践的な教育課程を編成するために、新たな授業科目の開設における連携はもちろんのこと、現存のシラバスやコマシラバスにまで落とし込める授業内容・方法の改善並びに教材開発につながる連携を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、教務系会議の中核的委員会として位置づけ、前期末、後期末の総括会議(科目検討、シラバス検討、コマシラバス検討、授業法検討など)において、計画上の可否、実行上の可否判断に関連外部実務家の意見をたえずフィードバックさせる会議体として機能させることとする。議事録などには、新科目開設の必要の有無、シラバス・コマシラバス改善の必要の有無、教授法改善の必要の有無などを科目単位で具体的にアジェンダ集約し、改善の中身が具体的にわかるよう会議を集約することを会議規程としても明白化している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
田中 富之	漫画家	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
中嶋 裕紀	イラストレーター	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
八木 茜	漫画家	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、3月)

(開催日時(実績))

(開催日時(実績))

第1回 令和1年10月30日 17:00～18:30

第2回 令和2年3月30日 17:00～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

企業連携の取り組みについての助言。また、学外活動や作品制作についてのアドバイス。問題解決型の授業スタイルの提案などの意見をカリキュラムに取り入れる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携した実習等は、1)学生が校内における通常の実習等では得ることが難しい実践的、専門的な知識や技術等を習得する場であり、2)さらには学習してきた知識や技術の理解度、習熟度を再確認し、3)企業等の関係者から具体的に実践的な評価を得て、学生の実務能力を多面的に開発する機会とする。また学生能力の習得のみならず、その機会を通じて、学校の実習カリキュラムがより実践的な内容になるよう努めることとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業と連携することによって、実際の物件を教材とし、計画、設計、プレゼン、施工それぞれの過程を体験的に学習する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
メディア企画実践Ⅰ	出版物を制作するための企画書の作成・ワークフローの理解、マーケティング、営業のロープレ等を通して、企画提案できるクリエイターの育成を目指す。	有限会社ストリング
漫画演習Ⅰ～Ⅳ	コマの割り方やキャラクターの見せ方、物語の展開の仕方など漫画を描くうえで基本となる技術の習得を目的とする。	清水桃里(漫画家)
マンガテクニックⅠ～Ⅳ	ペンの使い方やトーンの貼り方など漫画を製作する上で必要とされるテクニックの習得を目的とする。	岡本一広(漫画家)
印刷概論	印刷に必要なトンボやCMYK、CTP版など出版に必要な知識の習得を目指す。	第一印刷株式会社
背景美術	カラーイラストの基本となる空気遠近法や水彩塗、厚塗りなどのデジタルソフトを使った技術の学習	日田慶治(イラストレーター)
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 本校の教員研修の基本方針は、1)各教員の専攻分野における実務に関する高度な専門知識・技術の修得、2)およびそれらを授業計画(カリキュラム、シラバス、コマシラバス)に落とし込む能力の修得、3)さらにはその研鑽を実際の授業運営に反映させる教育力の修得を目的として、教職員研修規程第2条に定める研修を受講させることとする。同規程第3条に定めるとおり、所属長及び法人本部総務部責任者は、各教員の実務専門性や教育力の組織的で継続的な向上に努めることとする。		
(2) 研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「就職担当研修」 期間:平成31年4月26日(金) 対象:越智・空山 内容:自学科の特徴を分析しプレゼンする能力を身に付け、伝え方や解りやすく資料をまとめる能力など学生にフィードバックを行う。		
②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「エクセル研修」 期間:令和2年3月19日(木) 対象:空山 内容:Excelの基本的な使い方や応用などを学び資料作成能力などの向上に繋げ、学生に対してフィードバックを行いエクセルを用いた資料のまとめ方などを指導する。		
(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等 研修名「3DCGの見せ方」(デジタルハリウッド) 期間:令和2年8月3日 対象:越智 内容:早野海兵氏より制作・発表した建築物のフォトリアル作品の現実世界をも凌駕する圧倒的なディテールと構成美と合わせ、参考書ではお伝えできない作品に張り巡らされた幾多のテクニックを遠隔に学習する。		
②指導力の修得・向上のための研修等 研修名「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」(国立情報学研究所) 期間:令和2年4月17日 対象:高等教育機関の講師 内容:遠隔授業(ライブ配信型、オンデマンド型、課題提出型)実施のための様々な形体に合わせた現実的かつ実践的な研修。必要以上の苦労はせず、無理せず、対面授業と同等以上の成果を出すための秘訣に関する研修。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、自己点検評価の客観性・信頼性や社会的ミッションの取り込みを加速させる取り組みでなければならない。そのことによって、組織的、継続的な学校改善に実質的に寄与する自己点検評価の質的向上を図ることとする。またステークホルダーとしての関係者評価にとどまらず、将来的には、関係者を越えた第三者評価に発展しうる質の高い関係者評価を目指すこととする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的
(2) 学校運営	組織・管理運営
(3) 教育活動	教育
(4) 学修成果	基本指標
(5) 学生支援	就職指導、学生支援
(6) 教育環境	設置基準項目(施設設備等に関する事項)
(7) 学生の受入れ募集	学生の受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	設置基準項目、組織・管理運営(法令遵守)
(10) 社会貢献・地域貢献	学校教育以外の諸活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・学校関係者評価委員会のご意見については議事録を作成・保存しており、ご意見を頂いた内容を基に次年度以降の学校運営の計画を策定している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
野中 尚子	在校生保護者	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
宮川 春香	卒業生	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
宮内 慎	一般社団法人愛媛県建築士事務所協会	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
森田 聡	株式会社総合資格 松山支店	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
鈴木 正	株式会社愛媛CATV 技術・放送本部	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
濱谷 麗子	セキ株式会社	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
門脇 誠	未来高等学校	平成31年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.kawahara.ac.jp/idea/>

公表時期: 令和2年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

高度な職業教育への研鑽を組織的、継続的に推進するためには、組織的、継続的な企業連携が必須とわれわれは考えている。その連携を有意義なものとするためには、企業にとって、学校の教育人材目標やその現状が体制として見えやすいものになっていなければならない。教育課程編成会議、学校関係者評価会議などの会議規程の透明性や開放性はもとより、自己点検評価の各指標全体が検証可能な透明性や開放性を持つことが、そのためにも必須である。その方針の下、われわれは以下の連携指標をもつこととする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的、沿革、組織・管理運営、設置基準項目(施設設備等に関する事項)
(2) 各学科等の教育	基本指標、教育、設置基準項目(学生に関する事項)設置基準項目(教育に関する事項)
(3) 教職員	設置基準項目(教員等に関する事項)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動以外の諸活動
(6) 学生の生活支援	学生の受け入れ
(7) 学生納付金・修学支援	設置基準項目(財務に関する事項)、学生の受け入れ
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価結果公開資料
(10) 国際連携の状況	学校教育以外の諸活動
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
 (ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
 URL: <http://www.kawahara.ac.jp/idea/>

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		背景パース I・II	背景を描く上で必須となるパースに関する知識や技法について学習する。	1通	60		○	○		○		○		
2	○		デッサン I・II	画力の基礎となるデッサンについて学習する。	1通	120		○	○		○		○		
3	○		終了制作	期の締めくくりとなる作品制作の時間	1後	30		○	○		○		○		
4	○		illustrator 基礎	illustratorの基本的なオペレートから応用までの知識について学習する。	1前	30		○	○		○			○	
5	○		Photoshop基礎	Photoshopの基本的なオペレートから応用までの知識について学習する。	1前	30		○	○		○			○	
6	○		漫画演習 I	漫画を描く上で基本となるネームの書き方やコマ割りなどのルールについて学習する。	1前	30		○	○		○		○	○	
7		○	漫画演習 II	漫画を描く上で応用となる画面の見せ方や構図、吹き出しなどの見せ方について学習する。	1後	30		○	○		○		○	○	
8	○		コミックアート1	イラストを描く上で基本となる色彩感覚について学習する。	1前	30		○	○		○		○	○	
9	○		キャラクターデザイン I	オリジナルのキャラクターをデザインする上での概念や基本的な情報などの見せ方について学習する。	1前	60		○	○		○		○		
10	○		ペン基礎 I・II	漫画の基本となるGペンに関する使い方やテクニックなどについて学習する。	1通	30		○	○		○		○		
11	○		情報収集論 I・II	情報の集め方、取材の仕方などビジネスマナーも含めて学習する。	1通	30		○	○		○		○		
12	○		シナリオ技法 I・II	漫画を描くうえで重要となるシナリオの作り方見せ方について学習する。	1通	30		○	○		○		○	○	

13	○		ネーム基礎	ネームの考え方として一定のルールに伴った構成方法について学習する。	1 前	15		○	○		○		○					
14	○		HR	学生との面談や伝達事項、および検定などに関する学習や漫画、イラストなどに関する特別講義を実施する時間。	1 後	15		○			○							○
15	○		就職実務	就職の際に必要な履歴書の添削や面接練習、企業の選定などに関して指導を行う時間。	1 後	30		○			○							○
16	○		検定対策	卒業基準となる検定に対して学習を行う時間。	1 後	30		○			○							○
17	○		ポートフォリオ制作	illustratorを使って学生個人の作品集を制作する時間。	1 後	60		○	○		○							○
18	○		デジタル画材技法	Photoshop、ClipSTUDIOなどの特性を理解しデジタルでイラストを完成させるために必要な知識や技能を学習する時間。	1 後	60		○	○		○							○
19		○	Live2D	Live2Dの基本的なオペレートから簡単なアニメーション、部品分けなどの操作や概念について学習する。	1 後	60		○	○		○							○
20	○		デッサンⅢ・Ⅳ	イラスト、漫画の基礎となるデッサンによる描写を道具の使い方から表現の方法まで幅広く学習する。	2 通	90		○	○		○							○
21	○		課題制作	各期の締めくくりとなる課題を制作する時間。	2 通	180		○			○							○
22	○		デジタル画材技法Ⅰ	デジタルソフトを用いた作画技術の向上を目指し、表現方法の多様性を学習する。	2 前	30		○	○		○							○
23		○	Live2D	Live2Dソフトを用いて二次元イラストの動作法を学習する。	2 前	30		○	○		○							○
24	○		ビジネス著作権Ⅰ・Ⅱ	著作権を伴った作品に関する法律を学習する。	2 通	30		○	○		○							○
25		○	背景美術Ⅰ・質感技法	デジタルソフトを用いた基礎知識とそれを用いた多様な質感の表現方法を学ぶ。	2 通	60		○	○		○							○
26		○	背景パースⅠ・Ⅱ	漫画原稿の背景を描く上で必要な知識と法則、またそれらを描写する作画技術を学習する。	2 通	60		○	○		○							○
27	○		LINK制作	当校が発刊する漫画「LINK」に関する取材と冊子の原稿制作。	2 通	180		○			○							○ ○

28	○		シナリオ技法 Ⅲ・Ⅳ	漫画、イラストの内容を構築するストーリーやテーマの考察と、それらを表現する手法を学習する。	2 通	30		○	○		○		○		○
29		○	漫画演習Ⅲ・ Ⅳ	漫画制作の基礎となる知識と、それに伴った作画技術の応用方法を学習する。	2 通	120		○	○		○		○		
30	○		卒業制作	在学期間での集大成となる修了制作を行う時間。	2 後	120		○			○				○
合計						30 科目	1185 単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
授業科目の履修合格（課題制作、期末試験）		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	1 5 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。